

約4年ぶりの高値へと上昇した米ドル円

世界的なインフレ懸念・利上げ期待・金利上昇が円安の背景に

2021年10月20日

円安余地は限定的で円安ペースは鈍化へ

米ドル円は一時、2017年11月以来の高水準である114.70円まで上昇しました。世界的にインフレ懸念が強まるなかで利上げ期待も高まり、中長期の金利が上昇したことが内外金利差拡大を通じて円安に働いています。また、世界的な新型コロナウイルス感染の減少を背景に景気回復期待が根強いことがリスクオンの円安に作用しているほか、原油高が日本の貿易収支へのマイナス効果を通じて円安に作用しています。

今年9月以降は、多くの通貨に対して米ドル高と円安が進んだ結果、米ドル円は大きく上昇しました。米国の金利上昇が他国以上に進んだために米ドル高に働く一方、世界的な金利上昇が円安に働いたことが背景にあります。この1年、日米5年国債金利差と米ドル円は高い連動性を示しており、金利差拡大が米ドル円上昇につながりました。ただ、日米金利差拡大に比べて米ドル円上昇がやや過剰にも見えます。リスクオンや原油高に伴う円安に加え、年末越えの米ドル需要の強さなども影響しているようです。

世界景気が回復基調を辿り、リスクオンや海外金利上昇による円安が進む余地はあるでしょう。ただし、市場はすでに景気回復や利上げを織り込んできたため、円安ペースは鈍化すると考えます。米当局は景気動向を見極める必要もあるので金融引き締めを急ぐことはないと思われ、米長期金利と米ドル円のここからの上昇は限定的と想定しています。なお、世界的に新型コロナウイルス感染が再拡大すると、インフレ懸念による金利上昇が景気減速懸念を生みやすくなり、リスクオフの円高を招きやすい点は要注意です。

米ドル・円・他通貨の為替



日米5年国債金利差と米ドル円



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント